



## リリースノート(参考資料)

AdRem NetCrunch 15

NetCrunch は AdRem Software が開発し所有する監視ソフトウェアである。  
株式会社情報工房は日本における総販売代理店である。

©2025 Johokobo, Inc.

[20251111]

## 目次

<b>1. 本資料について .....</b>	<b>1</b>
<b>2. NetCrunch 15 の新機能/変更点/修正点 .....</b>	<b>1</b>
2.1. バージョン 15.0.1.7634.....	1
2.2. バージョン 15.0.2.7635.....	3
2.3. バージョン 15.0.4.7641.....	3
2.4. バージョン 15.1.0.7653.....	3
2.5. バージョン 15.1.1.7657.....	4
2.6. バージョン 15.2.1.7683.....	5
2.7. バージョン 15.3.0.7702.....	6
<b>3. 既知の問題 .....</b>	<b>8</b>
3.1. その他 .....	8
<b>4. よくある質問.....</b>	<b>8</b>
4.1. よくある質問および回答 .....	8

## 1. 本資料について

本資料では、AdRem NetCrunch バージョン 15.3.0.7702 日本語版(以下 15)について記しております。

## 2. NetCrunch 15 の新機能/変更点/修正点

NetCrunch 15 での新機能、変更点、修正点について記載いたします。

### 2.1. バージョン 15.0.1.7634

- トポロジーマップのスケールリング - エLEMENTが小さくなり判読できない場合、対象ELEMENTを非表示に変更
- アラート履歴ヒストグラムの更改 - 特定のタイミングでのサマリ値を表示するツールヒントを表示
- アトラスアップグレードオプションの追加 - 古いアトラスの監視パックと定義済みビューを最新にアップグレード
- デスクトップコンソールへ自動画面を追加
- 自動画面 - 表示するノードビュー、アラートビューの選択が可能
- NetCrunch Connection Cloud - 複数のタブで異なるサーバーへ接続が可能
- Device Config センサー - モデルプロンプトへの正規表現での上書きを追加
- 共有の埋め込み - ローカルサーバーまたは NetCrunch Connection Cloud 経由で Web サイトへ表示
- OLTP のサポート (仮実装) - OLTP クライアント経由で Telemetry ノードにデータを送信
- Web コンソールユーザーのパスワードの強制的に変更するオプションを追加
- Active アラートの表示 - グループボックスを使用して、グループ化を行うオプションを追加
- IPTools で SNMPv3 の暗号化方式を 2 種類追加
- Webhook - NetCrunch Connection Cloud 経由での受信を追加
- インターフェース監視 - エラーと破棄パケットをデフォルトで収集するように変更
- Active Directory signs of compromise の監視パックの追加 - セキュリティの兆候の監視で推奨されるイベントがリスト化
- Distributed File System Replication (DFS) の監視パックの追加 - Windows イベントログの特定の DFSR の警告とエラーを監視、名前空間と複製されたフォルダのパフォーマンスと容量を監視
- 多要素認証の追加 - ローカルまたはクラウド経由の Web コンソールログイン時に MFA の使用を強制にできます
- 検索結果で複数のノードを確認できた場合、複数選択できます
- ネットワークトポロジーマップ - 物理的セグメントマップ、ルーティングマップが統合
- デスクトップコンソール - あらゆる権限のユーザーが使用可能に変更
- ノードステータス - ノードのハードウェア情報を表示

- ノードステータス - SNMP システムや説明を追加
- ノードタグの追加 - グループ化、フィルタリング、検索が効率化
- 添付ファイルの追加 - ノードに関するドキュメントや画像を保存できる機能を追加
- 添付ファイル付きのメモを追加
- OS 監視で接続エラー、認証エラーのアラートが発生するように変更
- Oracle Table Space センサーを追加
- 通知の優先度 - ノードの重要度に応じて、通知をフィルタリング
- 外部イベントのメッセージテキストをクリックボードにコピーできる機能を追加
- グラフィカルデータビュー - ストレージにアップロードされた画像を再サンプリングするように変更
- アクティブアラート - グリッドビューで列のリセットオプションを追加
- NetCrunch サーバーサービスの再起動 - コンソールから再起動を実行できるように変更
- [SNMP]ウィンドウの新しい列に[システムの詳細]、[連絡先]、SNMP バージョン、プロフィールの列を追加
- 共有ビュー - パスワードの有無に関わらず、グラフィカルデータビューを共有
- Telemetry ノードの追加 - NTLP または OTLP プロトコルを使用して、ローカルまたはクラウド経由でカウンタ、ステータスオブジェクト、イベントを受信
- ノードステータスの[Windows]の[プロセス]項目に[CPU 時間]列を追加
- デフォルトのシステムアクセスプロフィールとユーザーが管理者によって変更または削除される可能性があった問題を修正
- プローブのアクセストークンが xml ファイルで適切にエンコードされていない問題を修正
- ログインした管理者以外のユーザーによるアクセス昇格に関する問題を修正
- ハードコードされたユーザーアカウントを使用して、ローカルサーバーマシンから NetCrunch にアクセスできる問題を修正
- 管理者以外のユーザーが NetCrunch の内部データにアクセスできる問題を修正
- 権限のないユーザーが特定の API を実行できる問題を修正
- プロフィールオプションでパスワード変更が拒否されているユーザーでもパスワードが変更できる問題を修正
- アップグレード後、カスタムインターフェース監視設定がリセットされる問題を修正
- アップグレード後、リモートプローブのライセンスが付与されない問題を修正
- サーバーの再起動ごとにデータベースのチェックが実施されていたため、1 日 1 回の実施に変更
- ルーティングマップでインターネット接続が表示されないケースがあった問題を修正
- 新しく追加されたビューやノードがそれ以前に作成されたカスタムアクセスプロフィールでアクセスできた問題を修正
- Web コンソールでアトラスツリーのフィルタリング機能が利用できなかった問題を修正
- センサー名の変更によって発生するレシーバーの問題を修正
- Web コンソールでアクセス権限のないアトラスビューを参照するとコンソールに異常が発生する問題を修正
- 毎分 500 個の SNMP カウンタを超えるノードの監視で、カウンタ値に異常が発生する問題を修正
- 「root」以外の組織ユーザーでグラフィカルデータビューが表示されない問題を修正
- ウィンドウを再度開いた後、間違った API キー名文字列が表示された問題を修正

- アップグレード後、HP ProCurve スイッチで認証に失敗しましたというエラーが発生する問題を修正
- ビューを下にスクロールした場合、ステータスダッシュボードタイルがドラックされる問題を修正
- Web コンソールのソフトウェアビューに検索フィールドがない問題を修正
- [元に戻す]操作がジオロケーションに反映されない問題を修正
- 監視テンプレートで一部のセンサーを設定した場合、テストボタンが表示されない問題を修正
- グラフィカルデータビューの[元に戻す]操作に関するいくつかの問題を修正
- Data Receiver センサーが未構成として表示してしまう場合があった問題を修正
- グラフの最小/最大ポイントが間違った位置に表示する可能性があった問題を修正
- ウィンドウが小さい場合、アクティブアラートのタイルが表示されない問題を修正
- 変更された主な機能
  - ・デモアトラス以外に保持できるアトラスの数が1つに変更  
※作成されたアトラスを保持している場合、インポートできません
- 削除された主な機能
  - ・フィールドの[情報]欄を削除  
※アップグレードの場合は引き継ぎ可能です  
※タブ機能や新規作成のフィールド機能より代替可能です

## 2.2. バージョン 15.0.2.7635

- アトラスのアップグレードが正常に実行できない問題を修正
- アトラスのアップグレード後、マップアイコンが失われる問題を修正
- アトラスに複数のサイトが含まれる場合、「ローカル - NetCrunch Server」のサイト名が上書きされる問題を修正

## 2.3. バージョン 15.0.4.7641

- 管理者権限を持つユーザーがデスクトップコンソールに接続できない問題を修正
- コンソールから 30 日間の評価ライセンスを発行できない問題を修正
- 現在のビューからレポートを作成できない問題を修正
- ルーティングマップにルーター以外のノードが表示される問題を修正

## 2.4. バージョン 15.1.0.7653

- SSL エラー関連のエラーについて、エラーコードを表示できるように変更
- Hyper-V 仮想マシン - 新しい監視パックとチェックポイント監視を追加
- IIS アプリケーションプールの追加 - IIS アプリケーションプールパラメータの監視が可能
- インターフェースビュー - インターフェースビューの並べ替えをより直感的に変更
- 新しい数値変換により、より正確な数値の表示が可能

- Process Group Summary センサー – 子プロセスの監視、リストから簡単に複数プロセスの選択できるように変更
- Process センサーの改良 – パラメータからのプロセスの選択、コマンドラインオプションから正規表現の利用ができるように変更
- 読み込みエラーのため、読み込みできないアトラスの場合、リストア、削除を選択できるように変更
- Microsoft Teams のワークフローで受信 Webhook をサポート
- アトラスツリーでフォルダ内のマップの整理に必要な移動操作が不足している問題を修正
- カスタム SNMP プロフィールが設定されているプリンターセンサーがある場合、アップグレードが正常に実行できなかった問題を修正
- 監視状態が正常でも、WMI 監視エンジンで接続エラーが発生していた問題を修正
- ポイントウィジェットのサイズがサイズ変更によって予期せず変更される問題を修正
- SNMPv3 通知プロフィールが機能せず、対象トラップが NetCrunch でデコードされない問題を修正
- 通知リストにアラートのクローズに関する説明が表示されない問題を修正
- アラートアクションのフィルターが無効にできない、変更が保存されない問題を修正
- 一部のプログラムライセンスで、監視パックの編集が許可されていなかった問題を修正
- インターフェーススキーマの変更が保存されていなかった問題を修正
- アトラスアップグレード機能を使用後、一部のビューが喪失していた問題を修正
- NC ノードの IP アドレスを手動設定している場合、NC ノードのサブネットプレフィックスが /8 に設定される問題を修正
- アップグレード後、Web サーバーが正常に動作せず、再起動が必要になる問題を修正
- アップグレード後、メッセージ送信機能が利用できない問題を修正
- [F5 Local traffic manager]の監視パックルールを修正
- [SMSEagle]のアラートアクションで、携帯番号から”+”が削除される問題を修正
- 印刷ダイアログで[PDF として保存]オプションを使用するとデスクトップコンソールがクラッシュする問題を修正
- IP ネットワークマップを別のフォルダに移動するオプションがない問題を修正
- Printer センサー で HP LaserJet プリンターが動作しなかった問題を修正
- アトラスを別マシンにインポート後、アラートメッセージ形式で [\$Extended.NetCrunchServer]のパラメータが更新されない問題を修正
- OS 監視を削除しても監視パックが削除されない場合がある問題を修正
- インターフェースの問題番号が、特定のビューの問題ではなく、全ての問題として表示されていた問題を修正
- ノード監視ステータスダッシュボードを無効にした場合、センサーが誤った警告ベルを表示していた問題を修正

## 2.5. バージョン 15.1.1.7657

- 特定の状況下で、クリーンアップが正常に動作せず、statusDB のサイズの肥大化、メモリ使用量の増加、それに伴う起動時間が非常に長くなる問題を修正

- root 組織に所属していない AD ユーザーがデスクトップコンソールにログインできない問題を修正
- 14.1 から 15.0 にアップグレード後、プログラムの自己署名証明書が消失する可能性があった問題を修正
- Hyper-V のチェックポイント監視でホストが英語以外の言語の際に発生していた問題を修正
- 特定の文字(アポストロフィーなど)を含むメールアドレスに、メール送信できなかった問題を修正
- ユーザーがログアウトせずにブラウザを閉じた場合、ユーザーセッションがクリアされない問題を修正
- スクリプトセンサーのパスにスペースが含まれる場合、正常に動作しなかった問題を修正
- 多数のメトリック(1000 以上)を 1 つのセンサーで監視している場合、トレンドデータにギャップが生じる問題を修正
- ノードステータスセンサーの可用性ウィジェットで誤った数値が記載されていた問題を修正
- 閉じるボタンをクリックした際に、間違った解像度が[無視]に設定された問題を修正
- テンプレートを使用して、OS 監視を変更した際に、正常に動作しなかった問題を修正

## 2.6. バージョン 15.2.1.7683

- Windows サービスのインストールとアンインストールに関するアラート - 対象サービスが追加または削除された際に自動的にアラートが発生するように変更
- Cloud Data Email センサーの追加 - クラウド配信データメールサービスのフローの監視が可能
- Cloud Email Round-Trip センサーの追加 - クラウドサービスにおける、メールの送信と返信のサイクルの監視が可能
- Cloud Mailbox センサーの追加 - クラウドサービスのメールボックスの可用性と使用状況の監視が可能
- PRTG との連携 - PRTG からセンサー、設定データのインポートが可能
- 監視プローブへの変更の簡易化 - メインサーバーから監視プローブへの変更が簡易化されました。これにより、オンプレミス環境からクラウド環境への移行が効率的になりました。
- NAKIVO Backup and Replication センサーの追加 - NAKIVO のバックアップタスクと結果の監視が可能
- Email Round-Trip センサーの拡張 - OAuth2 のサポートを追加
- Aruba スイッチのサポート - 監視パックを含む Aruba ハードウェアとのデバイスの互換性の拡張
- フィルタリングルールでの正規表現のサポート
- IP ネットワークに新しいノードを追加した際に、以前に追加したウィジェットが削除される問題を修正



- ESX/VM 監視にて「Cannot complete login due to an incorrect username and password」という問題が発生していても、「OK」ステータスが表示されていた問題を修正
- ネットワークポロジで 1 つのサイトを無効化にした場合、全てのサイトが無効になっていた問題を修正
- アラートのパラメータを参照すると、履歴がハングアップまたは非常に遅くなる問題を修正
- Windows サービスのアラートが正常にクローズしない場合があった問題を修正
- PING のネットワークサービス監視にて、「Failure Rate」が 100%の場合でも「Check Time」と「RTT」されていた問題を修正
- 優先ページで[マップ]のチェックを外すと、ページタブのヘッダーが消える問題を修正
- NetCrunch サービスの自動再起動の設定を表示する際、次の再起動の日付が正しく更新されない問題を修正
- セキュリティ強化のため、NetCrunch ユーザーのパスワードのエンコードを改良
- Registry センサーにて、特定の条件でアラートが追加できない問題を修正
- アトラススキャン中に停止を選択した際、既に検出されているノードを追加できるように変更
- パスワード内の「\$(ドル)」文字がセンサー内の PowerShell によって誤って認識していた問題を修正
- アトラスの読み込みエラーウィンドウを改良
- ユーザーのアラートクローズ理由が欠落していた問題を修正
- イベント条件を満たしていない場合でも、Telemetry アラートが発生していた問題を修正
- 特定の状況下でユーザーおよびアクセス権マネージャーで対象ユーザーがロックされ、共有リンクが開かない問題を修正
- 自動更新後、SNMP ビューのリストから一部のインターフェースが欠落する問題を修正

## 2.7. バージョン 15.3.0.7702

- ノードメニューからスクリプトや実行ファイルを直接実行できるワンクリックカスタムツールを定義できる機能を追加（デスクトップコンソールのみ）
- 監視プローブのアップグレードの改良 - 監視プローブを再構築せずにアップグレードができるように変更（次回リリースで分離されたネットワークを含む完全なアップグレード機能の実装を予定）
- 暗号化パフォーマンスの向上 - 暗号化が最大 200 倍に高速化し、数百以上の同時接続をスムーズに処理できるように改良
- SNMP リクエスターの向上 - SNMPv3 のパフォーマンスを数倍に高速化できるように改良
- Fujitsu Primequest (SNMP) の監視パックを追加
- SNMP 経由のハードウェアセンサーの追加
- NetCrunch のハンドシェイクプロトコルの最適化 - 多数の接続時のパフォーマンスを向上
- スケーラブルなリモートアクセス - アーキテクチャの改良により、数百のプローブとリモートコンソール接続をサポート

- セキュリティアップデート – TCP12009 の暗号化接続に最新の標準規格が採用され、証明書なしで TLS グレードのセキュリティ基準を実現
- データパーサーに Telegraf を追加
- Windows の[ディスク]の監視パックの内容を更新
- sFlow の機能強化 – sFlow の分析と処理を改良
- スタックスイッチの監視時にネットワークポロジで発生するメモリリークに関する問題を修正
- アトラス監視が無効な場合でもネットワークサービス監視が実行されていた問題を修正
- FreeBSD へのログインが正常にできなかった問題を修正
- サーバプロセスが 8 コアの使用に制限された問題を修正
- 監視対象にセンサーを追加後、デフォルトのアラートやデータコレクターが作成されない問題を修正
- 特定の列のフィルターを適用した際にグリッドから空のファイルがエクスポートされた問題を修正
- ネットワークトラフィック (SNMP) のデータコレクターにスケジュールの設定が存在しなかった問題を修正
- 2 回目のパスワード入力後、共有リンクビューがフリーズしていた問題を修正
- インターフェースビューで、TP-Link デバイスの接続済みデバイスが表示されなかった問題を修正
- パスワード付き SSL 証明書のインストール後、エラーが発生していた問題を修正
- 2 回目の変更後、SMTP サーバーの順序が保持されていなかった問題を修正
- カウンタ名またはインスタンス名に「&」を使用すると、パフォーマンストレンドチャートが正常に表示できなかった問題を修正
- ESXi/VM の同期問題により、監視が間違ったノードに割り当たってしまう問題を修正
- Windows サービスアラートエディタで変更が保存されなかった問題を修正
- Cisco CBQoS で自動生成されたセンサーID を他のインターフェース用に保存できなかった問題を修正
- Windows イベントログクエリで結果が正常に返されなかった問題を修正
- 1000 ノード以上の複数ノードの選択時に解除されてしまう問題を修正
- REST のアップロード後、新規ノードが不明状態になる場合がある問題を修正
- 特定のフロータイプが認識されなかった問題を修正
- IPv6 でトレースルートが機能しなかった問題を修正
- NetCrunch の複数のプロセスでメモリリークが発生していた問題を修正
- 特定の条件下でレシーバーが Web メッセージ/SNMPトラップ/Syslog の処理を停止することがあった問題を修正
- 監視プローブのアンインストール時に、設定が保持されず、確認メッセージも表示されなかった問題を修正
- 自己証明書使用時に PRTG のインポートが正常にできなかった問題を修正
- Stratix スイッチと Cisco IE2000 スイッチ間の物理接続が欠落していた問題を修正
- Windows タスクセンサーで特定のシナリオで誤検知が発生していた問題を修正
- sFlow のサンプリングレートの変更が反映されなかった問題を修正
- ノードステータスウィンドウの翻訳問題を修正
- 特定の条件下でインベントリセンサーを追加できなかった問題を修正

- Apache 監視でリクエスト数/秒列にラベルがなかった問題を修正
- 複数選択時に監視プローブノードが非表示になるように修正
- 一時レポートディレクトリがクリーンアップされなかった問題を修正
- ネットワークサービス検出のプログレスバーが常に 0%になっていた問題を修正
- カスタムインターフェースレポートで Y 軸の単位が誤っていた問題を修正
- 複数選択時にハードウェアセンサーの監視パックが追加できなかった問題を修正

## 3. 既知の問題

NetCrunch 15 での既知の問題について記載いたします。

### 3.1. その他

- Web アクセスを行った場合、マップを表示した際にレイアウトが崩れて表示される。  
回避方法:一度マップの[ノード]→[詳細]タブなどを表示したのち、再度[マップ]タブを表示する。
- SNMP プロフィールに SNMPv1 を使用した場合、値を収集できないことがある。  
回避方法:SNMPv2 を使用する。

## 4. よくある質問

NetCrunch について、よくある質問について記載いたします。

### 4.1. よくある質問および回答

- ノードの設定の[DNS 名]欄に日本語を使用できない。  
回答:バージョン 8 より仕様変更のため、使用できなくなりました。ファイルからノードの挿入を用いた場合やバージョンアップを行った場合、DNS 名に日本語を使用している場合、プロパティの変更を行うことができません。
- バージョン 6 からのアップグレード後、アラートのメールの件名に DNS 名が表示されない。  
回答:バージョン 7 より、イベントログの表示情報の仕様が変更されております。これにともない、デフォルトでメールのメッセージ定義に使用されている「\$Common.AlertInfo」に含まれる情報が変更されました。DNS 名を表示するパラメータとして「\$Properties.DisplayName」がございますので、メッセージ定義にこのパラメータの挿入をご試行ください。  
メッセージ定義の編集方法について、以下に例示いたします。

1. メインメニュー→[NetCrunch]→[アラート通知]→[メッセージ形式]を選択します。
2. [アラートメッセージ形式]ウィンドウにて[メッセージ形式]を選択します。
3. [email-txt]または[email]を選択します。
4. 編集したいメッセージ定義に[パラメータの追加]からパラメータを挿入し、保存します。

■ Admin のパスワードが分からない。

**回答:** Admin のパスワードが分からない場合、nccli.exe を使用してパスワードをリセットすることができます。nccli.exe は、NetCrunch のインストールフォルダ内に用意されています。

以下に手順を記載いたします。

1. NetCrunch 搭載サーバーのコマンドプロンプトにて、以下のコマンドを実行します。  
nccli.exe reset-admin-password
2. 実行結果内の[Admin password set to:]の項目のパスワードをメモします。
3. コンソールを起動すると、ユーザー名とパスワードの入力画面が表示されます。ユーザー名に Admin、パスワードは前述の手順 2 にてメモしたパスワードを設定の上、[OK]をクリックします。
4. [NetCrunch パスワードの変更]ウィンドウにて Admin のパスワードを設定の上、[OK]をクリックします。

■ NetCrunch から受信したメールが文字化けする。

**回答:** NetCrunch では、テキスト形式のメールの文字コードが「UTF-8」に設定されています。また、メールのヘッダー内に「MINE-Version:1.0」という表記が存在しないため、メーラーによっては MINE 形式と認識できず、文字化けする場合がございます。テキスト形式のメールが文字化けする場合、メーラー側で受信したメールを「UTF-8」で表示するか、NetCrunch が送信するメールを HTML 形式に変更することをご検討ください。

■ CSV ファイルからノードを追加する際、名前を設定して追加した。当初はノードのキャプションにはホスト名が表示されていたが、いつの間にか名前の表示が消えていた。

**回答:** CSV ファイルから追加したノードの名前が名前解決できないものである場合、ノードの設定にある[DNS 名]欄に名前が反映されません。この場合、[DNS 名]欄が空欄となり、空欄のまま設定を保存しますと、ノードのキャプションに表示されていた名前が削除されます。ノードの設定を編集する際には、[DNS 名]欄を再設定していただく必要がございます。

[DNS 名]欄を使用する以外にノードに名前を設定する方法としては、[表示名]欄とフィールドを使用する方法が考えられます。[表示名]欄を設定しますと、任意の名前をノードのキャプションに反映することができます。また、フィールドに設定することで、メール通知などのメッセージのパラメータを使用することができます。

■ トレンドデータ、イベントデータのテキスト出力方法が解らない。

回答: トレンドデータ、イベントデータをエクスポートする場合、nccli.exe を使用してエクスポートすることができます。nccli.exe は、NetCrunch のインストールフォルダ内に用意されています。

※バージョン 15 では、トレンドデータやイベントデータを出力する際、通常はシステムのローカル時刻が使用されます。ただし、-date-format iso を指定すると、出力時刻は UTC 基準になります。システムのローカル時刻で出力したい場合は、-local-date オプションを併せてご指定ください。

以下に使用方法の例を記載いたします

nccli.exe export-trend -node <node> -counter <counter> -from <fromDate> [-to <toDate>] [-file <fileName>] [-date-format]  
パフォーマンスデータを CSV ファイルにエクスポートできます。

コマンドパラメータ (export-trend):

オプション	説明
[-node]	ノード名、アドレス ID
[-counter]	カウンタパス。 例: Processor(_Total)\% Processor Time
[-from]	開始日。 例: 01/31/2022 or 2022-01-31
[-to]	終了日 (オプション)。パラメータが指定されていない場合、プログラムは 1 日のデータのみをエクスポートします。
[-hour-from]	開始時間 (0-23)。デフォルト 0
[-hour-to]	終了時間 (0-23)。デフォルト 23
[-file]	出力ファイル名 (フルパス)。 デフォルト <アトラステータフォルダ>\TrendExport
[-local-date]	実行機器で使用されているタイムゾーンでの表示ができます。
[-date-format]	データ出力形式。iso、local、sql で利用可能。 出力形式を省略した場合、sql フォーマットが既定で使用されます。 sql: 2024-11-27 13:15:08 local: 2024/11/27 13:15:08 iso: 2024-11-27T04:15:08.741Z

nccli.exe export-events -node <node> -from <fromDate> [-to <toDate>] [-file <fileName>] [-output <dataFormat>] [-local-date] [-date-format <format>]

イベントデータを CSV または JSONL ファイルにエクスポートできます。CSV ファイルはフラット形式であり、イベントパラメータを含めることはできません。

## コマンドパラメータ(export-events):

オプション	説明
[-node]	ノード名、アドレス、ID
[-from]	開始日。 例: 01/01/2024 or 2024-01-01
[-to]	終了日 (オプション). パラメータが指定されていない場合、プログラムは 1 日のデータのみをエクスポートします。
[-hour-from]	開始時間 (0-23)。デフォルト 0
[-hour-to]	終了時間 (0-23)。デフォルト 23
[-file]	出力ファイル名 (フルパス)。 デフォルト <アトラスデータフォルダ>\EventExport
[-output]	出力データ形式。CSV(デフォルト)または JSONL。プログラムは、イベントパラメータを JSONL 形式にのみエクスポートできます。
[-local-date]	実行機器で使用されているタイムゾーンでの表示ができます。
[-date-format]	データ出力形式。iso、local、sql で利用可能。 出力形式を省略した場合、sql フォーマットが既定で使用されます。 sql: 2024-11-27 13:15:08 local: 2024/11/27 13:15:08 iso: 2024-11-27T04:15:08.741Z